

建設資材加工業への外部支援機関等を活用した 事業復旧と販路開拓支援

(石巻信用金庫)

【概要】

本件は、震災により工場、機械設備等に甚大な被害を受けた企業の工場機能の復旧および販路支援による復興支援。工場の復旧に関しては、①二重債務問題、②工場復旧資金の調達、③売上確保の大きな課題があり、これらを外部機関との連携や政府補助施策の活用により課題解決する取組。

背景と経緯

B社は震災の津波により工場、機械設備、倉庫、在庫が浸水する甚大な被害を受け、長期間の操業停止を余儀なくされた。

全社一丸となった復旧作業により比較的早期の操業再開が可能となったものの、不足する設備の導入等による完全復旧には多額の資金が必要であり、従前の債務が重荷になっていた。また、震災前からトップラインに関する課題があり、震災によりさらに大きな課題となっていた。

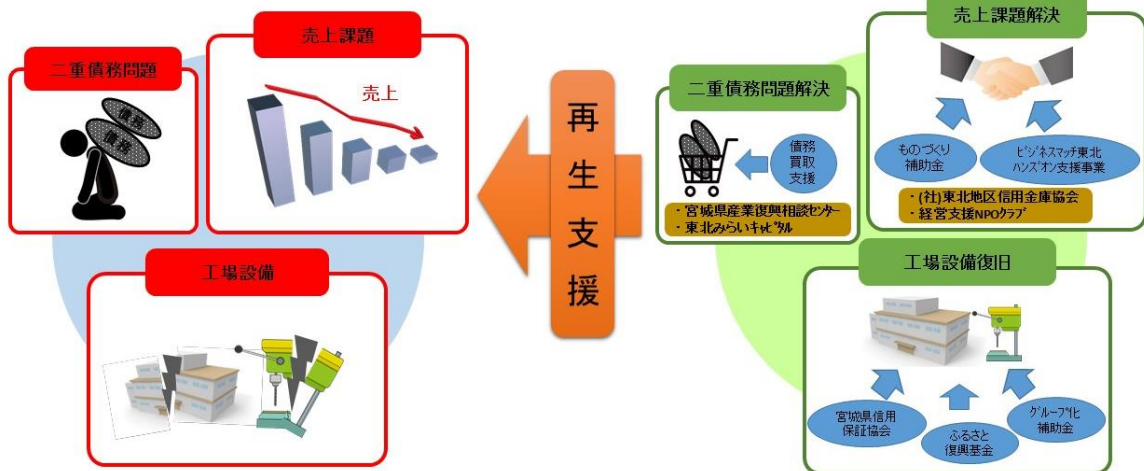
B社は資材加工の高い技術を有しており、取引先からの強い事業再開の要望があった。また、B社の強みである差別化された技術を有する従業員を継続雇用していた。

石巻信用金庫としては、工場や機械に甚大な被害を受けた企業であるも、一定程度の製作機械が稼働可能な状態となったことや、技術者も維持していたこと等から再建可能と判断した。

具体的な取組

宮城県産業復興相談センターの債権買取計画のもと、メイン金融機関として、B社の復興計画を後押しした。また、中小企業組合等共同施設等災害復旧事業のつなぎ融資により工場施設等の復旧を支援し、工場復旧後の材料仕入や労務費等の支払いに充当する初動運転資金の支援も行った。

あわせて、中小企業庁ものづくり補助事業を活用した売上確保および業容拡大を目論む事業計画の策定支援をしたほか、利子補給機能を備えた融資制度の利用による債務負担の軽減、収益性の改善、販路支援を目的とする外部支援機関と連携したトップライン課題の解決に取り組んだ。



取組の成果

二重債務問題の解消により、工場再建にかかる設備導入費用や初動運転資金の新たな資金調達が可能となり、早期の工場再開および安定した工場稼働に至った。

従前からの課題であったトップラインについては、外部の専門機関と連携したハンズオン支援により新たな販路を開拓し、その後も継続した取引先となっている。

今回の取組みにより、高度な技術を有する地元企業の存続と地域での雇用、さらには震災により旺盛となっている建設需要に対応するものとなった。

今後の課題

当社の強みは高度な技術を有する人材であるが、技術者の高齢化と後継人材の育成が課題となっており、復興需要により人員不足および人件費高騰も新たな課題となっている。

損壊した設備は補助金等で復旧したものの、従前設備の更新や新規設備の導入ニーズがあり、更なる資金調達が必要となる。

中国や東南アジアからの安価な輸入品の台頭が懸念され、会社機能の効率化や製造コストの削減が求められる。



Point | 支援実施のポイント／横展開にあたっての示唆

支援実施のポイント①

外部専門機関との連携による効果的な課題解決支援

支援実施のポイント②

業界動向や企業特性等を把握したタイムリーな金融サービスの提供